男子ホッケーU18日本代表チーム
日韓交流事業　（韓国：大邱市）

日　付	2017年10月31日　10:30～		
場　所	安心体育公園　大邱ホッケー場	天　候	晴れ
試　合	第3戦	通算結果	日本　0勝2敗1分

RESULT

Country				Country
日本 JAPAN	2	0 - 0	2	韓国 KOREA
		1 - 0		
		0 - 2		
		1 - 0		

Minute	Shrit No.	Name	GREEN	YELLOW	RED
✔	1	北河　拓実(GK)			
8	4	澤口　翔愛			
✔	6	清水　遥斗			
✔	8	萩塚　　拓			
✔	9	岩﨑　和也			
✔	11	田村　圭梧			
✔	12	大嶋　鴻太(C)			
✔	13	松本　和将			
8	14	沼田　空			
✔	17	北村　柊希			
8	18	深見　泰雅	22		
✔	19	藤沢　颯人			
9	22	河邉　皓星			
9	23	丹羽　巧磨	38		
✔	24	川原　大和			
✔	25	古川　裕大			
Coach	三上　克典				
Manager	仙名　洋一				
UMPIRE	KIM TEA HYUN				

Minute	Shrit No.	Name	GREEN	YELLOW	RED
✔	1	MOON EUN TAEK(GK)			
✔	3	PARK YO SEP(C)			
✔	6	KIM JIN SEOK			
✔	7	GO SOUNG HOON			
9	8	YU SEON IL			
8	9	SON DA IN			
✔	10	PARK JUN SEOK	59		
✔	11	LEE CHANG MIN			
8	12	CHO SUNG BIN			
8	13	KIM JUN SU			
✔	15	BAE SOUNG MIN	58		
✔	17	KIM HYUN WOO			
10	19	PARK JAE HUN			
✔	23	JUNG SUNG HYUN			
✔	25	JANG PIL HYUK			
✔	32	LEE HYE SEUNG			
Coach	LEE SEONG JIN				
Manager	YOO MOON KI				
UMPIRE	JON HONG KWON				

Team	Minute	Name	Action	Score
JPN	18	深見　泰雅	FG	1－0
KOR	33	PARK JUN SEOK	FG	1－1
KOR	40	LEE HYE SEUNG	PS	1－2

Team	Minute	Name	Action	Score
JPN	59	**田村　圭梧**	PC	2－2

日韓交流事業　第3戦

第1Q、日本のセンターパスにより試合が開始される。日本は、連敗していることもありこの一戦は絶対に落とせない。その気持ちを前面に出してハードワークから勝利を狙いたい。日本は高い位置からプレスをかけ相手のミスを誘い、そこからショートパスをつないで攻撃に出る。対して、韓国は堅い守りから早い攻撃を仕掛け7分PCを取得するも＃1北河の好セーブによりゴールを許さない。その後は、一進一退の攻防が続き両チーム無得点のままQ1が終了する。

第2Q、日本は、立ち上がりFWの速い動き出しからパスがつながるようになりチャンスが生まれ16分、＃23丹羽がライトサイドからスピードの乗ったドリブルからPCを取得する。これを＃11田村がフリックシュートを打つも枠を捕らえることができない。その後もプレッシャーをかけ続けた日本にゴールが生まれる。18分相手のボールをカットした＃18深見はGKと1対1の場面で冷静にヒットシュートを決めた。この勢いで追加点を挙げたい日本ではあったが、韓国も堅い守備から逆にチャンスを作る。韓国は、27分PCを取得し、スウィープシュートを放つが＃11田村がタイミングよくブロックする。日本リードでQ2を終了する。

第3Q、開始早々同点に追いつきたい韓国は、31分強烈なリバースシュートを放つが、ここもGK＃1北河が好セーブで凌ぐ。しかし、韓国の勢いは続き33分、日本陣内でボールを奪うと＃10PARK JUN SEOKがGKと1対1になりプッシュシュートを決め同点とする。さらに、40分日本はサークル内でファールを犯し韓国にPSを与えてしまう。これを＃32LEE　HYE SEUNGが落ち着いて決め逆転に成功し、Q3を終了する。

第4Q、46分日本は、早いターンオーバーから相手のファールを誘いPCを取得すが得点にはつながらない。逆に韓国も48分PCを獲得するがこちらも得点につなげることはできない。この試合絶対に負けられない日本は、52分、54分と＃24川原のドリブルから決定的なチャンスを演出するも枠を捕らえきれない。残り時間もわずかとなったところで、日本は59分にPCを取得する。ここで＃11田村のフリックシュートはDFに一度は阻まれるが、リバウンドボールを＃11田村が拾いヒットシュートを決め同点となり試合が終了した。

日韓交流事業は3戦中、2敗1分で終えた。

日本	5	シュート数	4	韓国
	3	PC数	4	

校閲：男子U18ヘッドコーチ　三上　克典

記責：男子U18アシスタントコーチ　酒井　健之